



1. 南幌町収穫祭で厚岸町直送のサンマを笑顔で配る学生
2. 三笠市北海盆踊りで石炭カツギレースを補助
3. 南幌町遊びの達人イベントで地域の子どもとふれあい
4. 江別市出前環境学校で子どもにごみの分別を教える学生
5. 由仁町でムカデ競争に挑戦する学生たち



特集

地域で輝く学生の笑顔

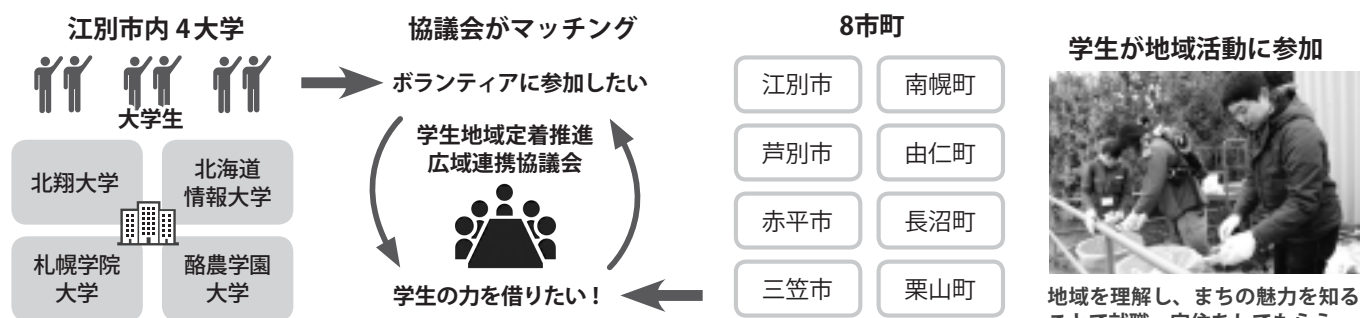
学生地域定着自治体連携事業



約1万人の大学生が集う「学生のまち」江別市。学生に「まちの魅力を知ってほしい」「将来は地域で働き定住してほしい」と、市内4大学と8市町が連携して、学生を地域のイベントなどに受け入れ、地域理解を図ることで地域への就職・定住につなげる「学生地域定着自治体連携事業」、通称ジモ×ガクがさらに活気づいています。

活動を通して成長した学生や、学生たちを支える人々の熱い思いが、まちと大学の新しい関係を作り上げています。

大学生が地域・地元で学び、活躍する「学生地域定着事業」通称 **ジモ×ガク** はこんな取り組み！





1. 栗山町匠まつりに参加した玉木さんと友人
2. 市内自治会の夏まつりで焼鳥を仕込む白幡さん
3. 栗山町夏まつりでまちの人々と踊る玉木さん



地域活動、ハマります！

まちの魅力を 知り、 まちで輝く自分に出会う

地域活動と出会い、

やりたいことが見つかった

「まちの人と出会える、まちを知れることが魅力ですね」札幌学院大学に通う玉木和真さんはジモ×ガクの活動について笑顔で話します。

玉木さんがジモ×ガクに参加したきっかけは大学の授業で活動が紹介されたこと。野球が好きだった玉木さんは、由仁町の自治会対抗ソフトボール大会のボランティアに関心を持ち、参加しました。初めはボランティアに「堅苦しい」というイメージを持っていたと話す玉木さんですが、地域の人々と交流する楽しさを知り、活動にのめり込んでいきました。

その後、大学の友人を誘って活動に参加したり、大学内で学生自治活動に取り組むなど、充実した学生生活を送っています。「ボランティアをした地域に関心を持つように

なりました。これからも知らない地域での活動に積極的に参加したい」と話します。

地域と関わり成長を感じる

北海道情報大学に通う白幡里菜さんは、ゼミ活動をきっかけにジモ×ガクへ参加しました。活動で地域の方と出会うことを楽しみにしているそうです。

「活動を通じて、いろいろな地域へ行き、世代を超えた多くの方と活動できたことが収穫です。人前で発言することへの苦手意識も少なくなりました。今後は、人と関わる楽しさを大切にしながら就職活動に取り組みたいです」と白幡さんは目を細めます。



北海道情報大学3年
白幡 里菜さん (21歳)



札幌学院大学2年
玉木 和真さん (20歳)

Interview

学生が地域で変わる “化学反応”を起こしたい



(一社)北海道ブックシェアリング 荒井 宏明さん(54歳)

大麻銀座商店街で、毎月開催される古本市「ブックストリート」を主催。このイベントは平成26年12月にスタートし、平成28年からジモ×ガクの登録学生をボランティアとして受け入れています。

ボランティアの学生には会場設営などを手伝ってもらい、とても助かっています。学生が商店街に来てくれるだけでイベントに活気が出ます。何度も参加してくれる学生の中には、人柄が地域の人に気に入られ、ひっぱりだこになるほど馴染む学生もいます。引っ込み思案な学生が、ボランティア活動を通じて明るく変わっていく“化学反応”が起きると嬉しいですね。一方で、自分が変わらないことを気にすることはないと思います。楽しく参加してもらい、地域の魅力を知るだけでも、とても有意義だと思います。学生の活動をより活発にするために、地域が主体となって、学生を受け入れる体制や仕組みづくりを進めていくことが重要だと思います。

まちづくりからみたジモ×ガク

地域全体をキャンパスに



1

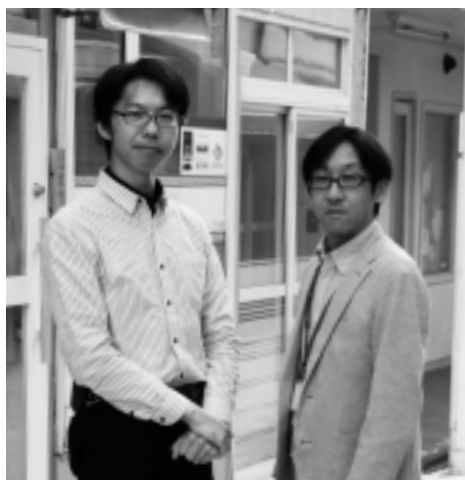


2



3

1.2. 大塚銀座商店街のブックストリートに参加する学生たち。会場設営から案内役まで幅広く活動し、イベントの運営を支えます。
3. 南幌町自然体験で、飯ごうで炊いたご飯を子どもたちと一緒に食べる学生。学生も子どもたちも笑顔がこぼれます。



理事
はしもと まさひこ
橋本 正彦さん (40 歳)

事務局長
なりた ひろゆき
成田 裕之さん (43 歳)

学生と地域の架け橋

学生地域定着事業「ジモ×ガク」コーディネート担当
NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

楽しく、おもしろいと思っ
て参加してほしい

「NPO 法人えべつ協働ねっとわーく」は、ジモ×ガクのコーディネート担当として、地域と学生を結ぶ架け橋の役割を果たしています。ジモ×ガクに参加する学生たちの取りまとめやボランティア情報の発信、学生の力を借りたい地域の窓口を担っています。

「参加者アンケートによると、学生の7割はボランティア活動に関心を持っています。関心のある学生に必要な情報を届けた」と話すのは、同法人事務局長の成田裕之さんです。学生がやってみたいことと、地域が学生に求めることをマッチングさせるため、

日々、ネットワークを広げ、事業運営やPRなどのコーディネートをしています。

「まずは学生に楽しい、おもしろいと思ってもらえるように頑張ります」と成田さんは熱く語ります。

生き方を考えるきっかけに

「地元の企業を知り、ブランドや知名度ではなく、働く人、職場を見て就職先を見つけて欲しい」と話すのは、同法人理事の橋本正彦さん。学生を受け入れる自治体とプログラムの調整を行い、ジモ×ガクの運営を支えています。地元イベントに参加したことが無かった学生が、ボランティアをしたときに、自分の住んでいた地域の魅力に気が付くと橋本さんは話します。

「就職するときに地元を離れることがあるかもしれせん。でも楽しい思い出をたくさん残して、心の地域定着を実現できれば、転職などの転機に江別に戻ることも選択肢になっていくと思います」橋本さんは、地域定着の今後の展望を話します。



栗山子育て支援児童会館で地元の子どもたちと楽しくふれあう学生たち

大学からみたジモ×ガク 地域と共に生きる 人材を育てる

地域活動を単位に認定

札幌学院大学では、地域で活躍する人材育成に力を入れており、ボランティアなどの地域貢献活動の科目が設けられ、ジモ×ガクの活動も単位認定の対象となっています。

大学のカリキュラムや、学びの方向性を考える部署である教育支援課長の松本賢彦さんは、「本学の教育理念の一つに、『共生』地域と共に生きる人材の育成が掲げられてい

ます。この理念が、ジモ×ガクの考えと一致し、単位認定が実現しました」と話します。

活動を通じて成長する

「ジモ×ガクで驚くほど成長した学生がいますよ」と松本さんは話します。

同大学のこども発達学科の学生が、栗山町の子育て支援ボランティアに参加しています。元々はおとなしい学生でしたが、受け入れ先に温かく迎えられ、どんどん成長して



札幌学院大学教育支援課長
松本 賢彦さん (50 歳)

いきました。今では仲間を声をかけるリーダーシップを身に付け『ミスターボランティア』と呼ばれるほど、主体的に地域の方々と関わり、実践的な学習につながっています。

さらに地域全体を

学びのフィールドに

「本学は本年4月から心理学部を開設します。地域や人とのコミュニケーションが大切な学問なので、ジモ×ガクへの参加を含め、もっと地域での『学び』を活発にしていきたい。これからは学生のやってみよう、地域が求めるニーズをマッチングさせる機会をもっと増やして、学生が地域で活躍しながら『学ぶ』取り組みをさらに活性化させたい」と松本さんはジモ×ガクの今後に期待を寄せています。

スマホで手軽に5分で登録完了！ あなたもジモ×ガクに参加しませんか？

1. HP にアクセス！

スマートフォンやパソコンから「ジモ×ガク 学生地域定着広域連携推進協議会」のホームページにアクセスします。

2. 登録フォームから申込！

ホームページの「学生募集」から、仮登録フォームに氏名、性別、大学、学年、連絡先などを入力して登録を申し込みます。

3. 好きな活動に応募！

ホームページの「募集中の活動」などに掲載されているものから、希望の活動にメールで応募します。参加が決定するとメールが届きます。

4. 活動に参加！

元気に楽しくイベントなどに参加しましょう！地域の人と交流し、新しい友だちを作りましょう！

右のQRコードからアクセスできます！



学生地域定着

検索



いつでも簡単に！



イベントの詳細も確認できる！



ジモ×ガクに関するお問い合わせはこちらへ

えべつ協働ねっとわーく ☎ 374-1460、企画課大学連携担当 ☎ 381-1015